



伝統みらい研究センターの設立

MIRAI Research Center for Traditional Crafts

2017年3月11日

伝統みらい研究センター所長

芸術学部ソーシャルデザイン学科 教授

釜堀文孝

センターの目的

1

伝統みらい研究センターは、九州の伝統産業の技術伝承のあり方及び知恵を明らかにするとともに、その知見を地域の活性化のために活用することにより、我が国における未来のものづくりに寄与することを目的としています。

そのため、九州の伝統工芸を対象として技法の伝承のみならず、マーケティングやデザイン、商品戦略等の伝統工芸が抱えている様々な課題を多面的に調査・分析研究し、問題解決案を提示するという九州の伝統工芸を基とした地域産業全般のシンクタンクとなることを目指します。

センター長：釜堀文孝

地域産業研究部門

柿右衛門研究部門

地域産業のシンクタンク

- 北島 己佐吉 (芸術学部)
- 伊藤 精男 (経営学部)
- 内山 敏典 (経済学部)
- 侯 利娟 (経営学部)
- 飯高 由希雄 (芸術学部) ほか
- 佐藤 佳代 (芸術学部)
- 渡邊 孝一郎 (商学部)

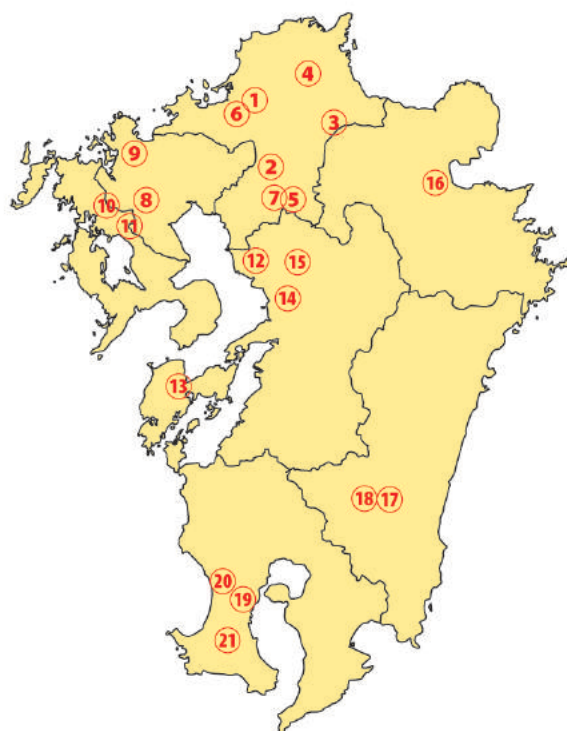
柿右衛門の長期的な追跡調査

- (酒井田 柿右衛門 教授)
- 小林 繁夫 (工学部^{※1})
※1)「2017年4月より生命科学部」
- 濱川 和洋 (センター教員) ほか
- 梶原 茂正 (芸術学部)
- 渡邊 雄二 (芸術学部)

外部委員：関係自治体、関係団体等

センター設立の背景 (1)

九州は伝統工芸の宝庫

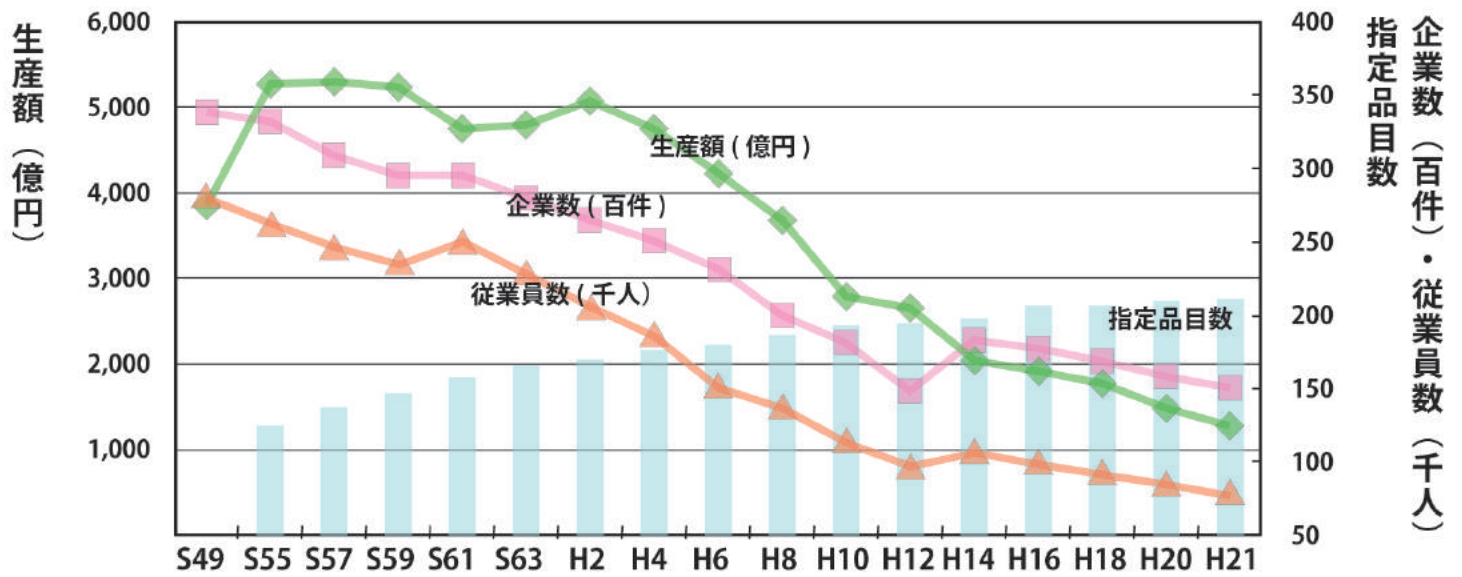


九州の伝統的工芸品産業 (九州の 21 品目)

- | | |
|----------|--------|
| 福岡県 | 熊本県 |
| ①博多織 | ⑫小代焼 |
| ②久留米緋 | ⑬天草陶磁器 |
| ③小石原焼 | ⑭肥後象がん |
| ④上野焼 | ⑮山鹿灯籠 |
| ⑤八女福島仏壇 | 大分県 |
| ⑥博多人形 | ⑯別府竹細工 |
| ⑦八女提灯 | 宮崎県 |
| 佐賀県 | ⑰本場大島紬 |
| ⑧伊万里・有田焼 | ⑱都城大弓 |
| ⑨唐津焼 | 鹿児島県 |
| 長崎県 | ⑲本場大島紬 |
| ⑩三川内焼 | ⑳薩摩焼 |
| ⑪波佐見焼 | ㉑川辺仏壇 |

センター設立の背景 (1)

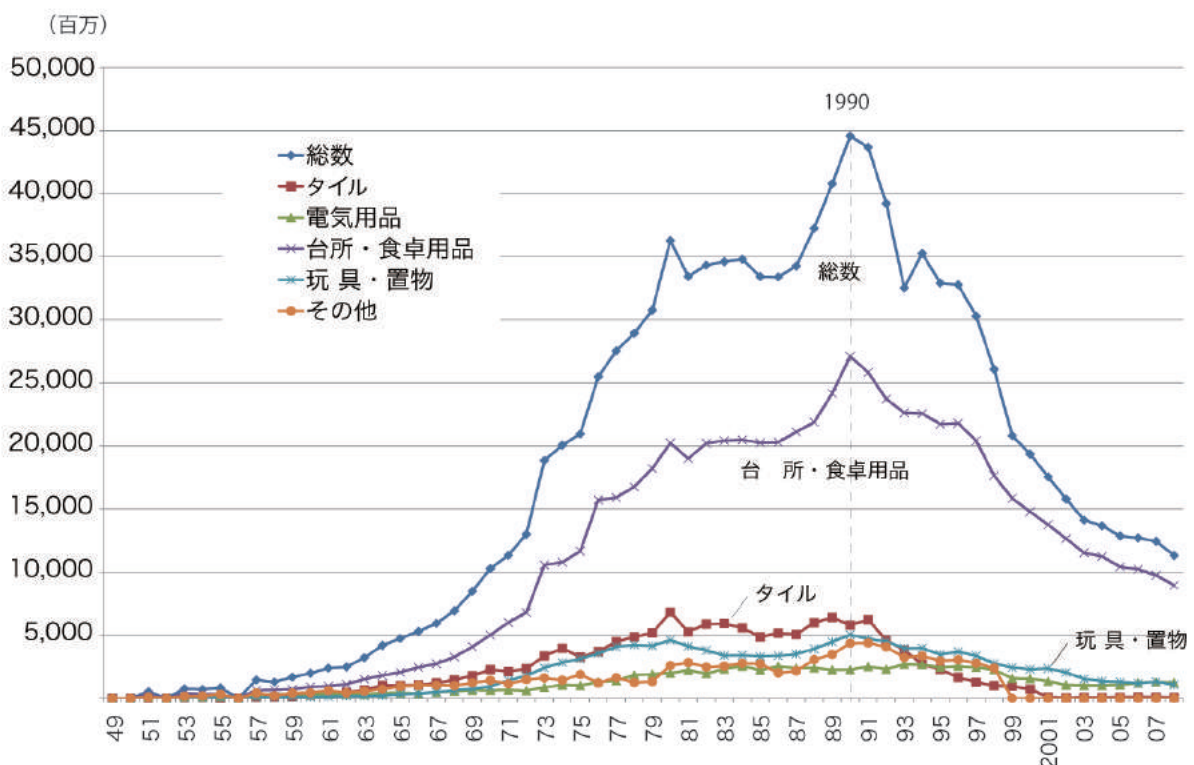
苦戦する伝統工芸（全国の出荷額等の推移）



出典：(財) 伝統的工芸品産業振興会調べ

センター設立の背景 (1)

有田焼の製造出荷額の推移 (1949-2008)



出典：佐賀県工業統計から

このままでは産業は消滅
してしまう。

技術の伝承が断絶
日本の生活様式の消滅
日本らしさの消滅



20年間で出荷額が約4割に減少

昭和40年代初の生産約80万反
が現在は15万反。

伝統工芸品産業が直面する課題

需要の低迷

- ・少子高齢化による人口減少
- ・ライフスタイルの変化
 - ・生活の洋風化、冠婚葬祭・伝統儀礼の衰退
 - ・利便性・機能が重視への価値観の変化
- ・輸入品などの安価な生活用品の普及
- ・情報・知識が不足（特に若年層）
 - ・伝統的文化、生活様式の知識
 - ・使用法、メンテナンス方法
 - ・本物の良さ

マーケットの課題

量産化が困難

- ・手間と時間をかけた丁寧な仕上げ
 - ・多岐にわたる複雑な工程
 - ・小規模企業が多い

価格・コスト高

生産基盤の減衰

- ・原材料である自然素材の枯渇
- ・産業の縮小に伴い生産用具の衰退

人材・後継者の不足、高齢化、資金難

(平成23年2月、経済産業省製造産業局 伝統的工芸品産業室から)

伝統工芸品の意義と「伝統みらい研究センター」

伝統工芸に代表される日本のものづくり

高い技術に裏付けられた「用の美」

日本的な感性と先人が築き上げてきた日本の文化の集大成

伝統工芸の知恵・技術を世代を超えて伝承

再生発展（産業として持続可能なビジネスとして再生させる）

現代の私たちに課せられた重要な課題

伝統工芸の課題を芸術・デザイン、経営、マーケティングなど、
多分野から分析し、再生復活の手法を確立できるのは総合大学の
九産大しかできない



九州産業大学スローガン





伝統工芸に対するこれまでの取り組みと柿右衛門様式陶芸研究センター

本学の伝統工芸に対するこれまでの取り組み

- ・ 工芸（陶芸・染織・金工）の専攻を持つ芸術学部
- ・ 「博多織」「博多人形」「久留米緋」などのプロジェクト 2011~
- ・ 柿右衛門様式陶芸研究センターでの研究実績 2004~
- ・ 酒井田柿右衛門氏、小川規三郎氏の教育活動 1999~
- ・ 柿右衛門様式学（教養講座 2011~）、柿右衛門特論（大学院 2012~）開講

柿右衛門様式陶芸研究センター

2004年文部科学省 21世紀 COE(Center of Excellence 世界的な研究拠点) に採択
(柿右衛門様式陶芸研究センター設立)

目的：柿右衛門様式磁器を中心とした世界的な美学・文化史的な研究

研究部門：歴史研究・カリキュラム開発部門
技法研究部門
意匠研究部門



伝統工芸に対するこれまでの取り組み



柿右衛門学（教養講座）



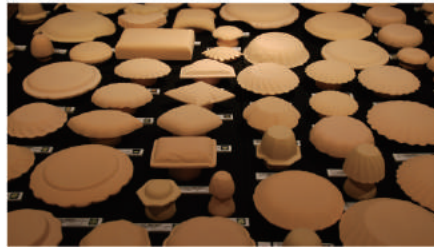
九産大プロデュース展



工芸（陶芸・染織・金工）の専攻を持つ芸術学部

柿右衛門様式陶芸研究センターの主な研究実績

- ・国内外の柿右衛門様式磁器の所在調査
- ・色絵付けの再現研究
- ・文様のデータベース構築
- ・土型の3次元形状測定
などを実施



土型の3次元形状測定



国内外の柿右衛門様式磁器の所在調査と
売立目録等の調査



文様のデータベース構築



名人技の記録



色絵付けの再現研究

海外との17を超える研究ネットワーク



- 大英博物館 日本部門部長
ティモシー・クラーク氏
- ドレスデン国立美術館
陶磁器部門部長ウルリッヒ・ピーチュ博士
同館学芸員エファ・シュトレイバー博士
- マイセン国立磁器製作所
ゼネラル・マネージャーディーター・ゲアハルト博士
- ベルリン国立プロイセン文化財美術館
東アジア美術館館長 ヴィリバルト・ファイト博士

- ライデン大学教授 フローニンゲン博物館東洋陶磁器部門
顧問 クリスティアン・ヨルク博士
- プリンセスホーフ美術館
学芸員 スーザン・フロート博士
- ヘッセン州立博物館 前館長
エックハルト・シュミットベルガー教授、学芸員テュムラー女史
- ヴィルヘルムスタール城
城館管理責任者ブルクホルスト博士
- ファザーネリー城 城内博物館館長ミラー博士
- ゴータ城 デベリッツ女史
- アルンシュタット城 城内博物館
マティアス・クライン館長、シャイト女史
- ルードヴィヒスブルク城 シュトゥットガルト造形大学
リツルバウアー教授
- ファヴォリーテ城 ウルリケ・グリム博士
- リンデン美術館 極東美術部門学芸員 クラウス・ヨアヒム・ブラン
ト博士、同学芸員補パトリシア・フリック女史
- レジデンツ宮殿 宮殿博物館 フリードリケ・ウルリヒス博士
- セインズベリー日本藝術研究所所長 ニコル・クーリッジ・ルーマニ
エール氏
- サザビーズ・インスティテュート・オブ・アート教授、パーリー
ハウスコレクション名誉学芸員ゴードン・ラング氏

[その他]

アルテンブルク城、パーナード・リーチ窯、ファルマウス芸術大学、
ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、
ウェッジウッド

美の鼓動 BI NO KODO KYUSHU

2015年4月5日から始まった『美の鼓動・九州』は2017年3月26日に100回を迎える。



テキスタイルデザイナー 福山みき

1982年、福岡生まれ。高校でグラフィックを学び、専門学校でグラフィックデザインを学ぶ。入社してからはテキスタイルデザイナーとして活躍中。



博多人形師 永野繁大

1987年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で博多人形師として活躍中。



陶工 坂本創

1984年、福岡生まれ。高校で陶芸を学び、専門学校で陶芸を学ぶ。入社してからは陶芸家として活躍中。



陶工 坂井亮二

1987年、福岡生まれ。高校で陶芸を学び、専門学校で陶芸を学ぶ。入社してからは陶芸家として活躍中。



今回の主人は陶芸家。器に込められた思いや情熱が、様々な技法を駆使して生み出されています。



鍛金家 今尾 誠

1982年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で鍛金家として活躍中。



肥後象眼土 坂元光香

1987年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で肥後象眼土として活躍中。



漆工藝 宮城壮一郎

1982年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で漆工藝として活躍中。



竹かご 西本 有

1982年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で竹かごとして活躍中。



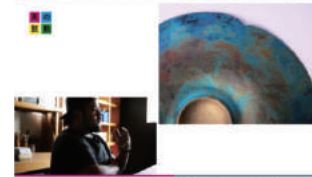
辻絵具店 辻昇楽

1987年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で辻絵具店として活躍中。



肥後象眼土 坂元光香

1987年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で肥後象眼土として活躍中。



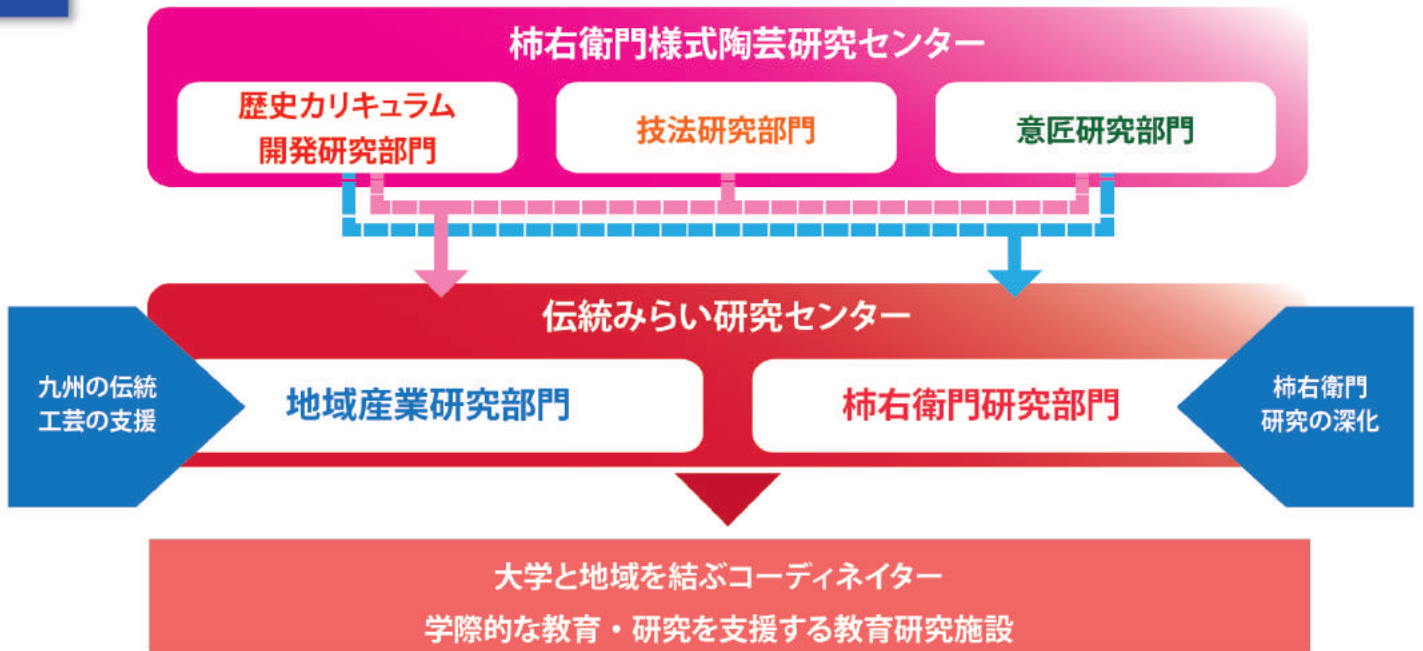
漆工藝 宮城壮一郎

1982年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で漆工藝として活躍中。



竹かご 西本 有

1982年、福岡生まれ。2011年、伝統工芸士の認定を受け、福岡県立大学で竹かごとして活躍中。



- 地域支援を行う公的機関と連携しつつ、長期に及ぶ **地域密着型支援** を行う。
- 産地中小企業とのネットワークを築き、産学連携プロジェクトを推進する。
- 伝統文化やその応用方法について誰でも広く学べる教育研究機関としての機能を強化。
- 収集蓄積した情報・ノウハウを活かし、地域産業活性化に寄与する。

伝統みらい研究センター

1) 地域産業研究部門

短期目標：九州の伝統工芸の調査と問題点等の抽出

長期目標：地域産業のシンクタンク機能

九州の伝統的な工芸品産業を調査し、問題を抽出、マーケティング、ブランディング、販売促進など様々な専門的観点から多角的に検討し、商品開発、販売戦略などを含む伝統的工芸品の再生発展のための戦略を構築し、長期的な支援を行なっていきます。

また、それらのノウハウや事例を蓄積し、地域産業全般の課題に対応するシンクタンクとしての機能を充実させていきます。

2) 柿右衛門研究部門

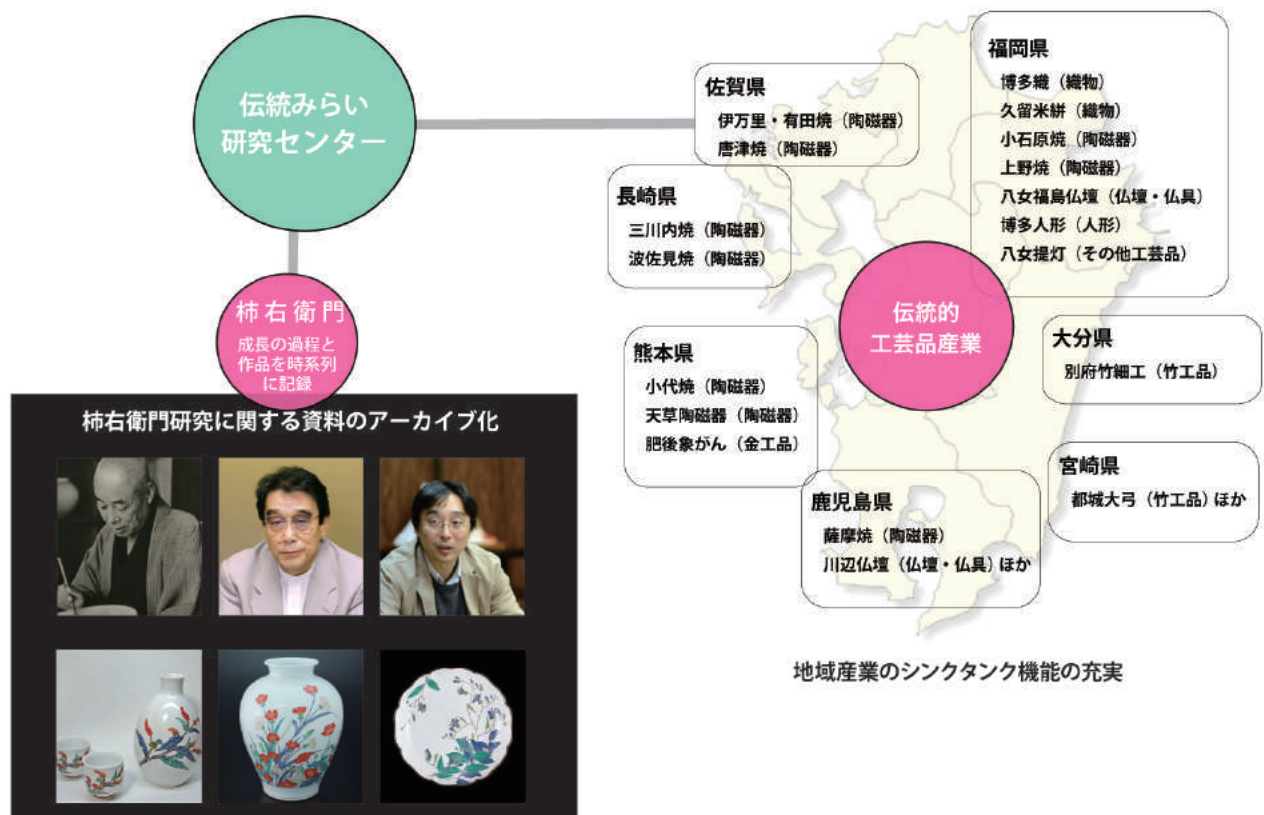
短期目標：柿右衛門の作品と成長過程の記録

長期目標：柿右衛門のアーカイブ化

これまでの研究成果と、ネットワークを活かしながら、柿右衛門の人物および作品の継続的かつ時系列に記録を残していき、今後の柿右衛門の成長過程および人間像に迫っていきます。

調査資料のデジタルデータ化を進めて、世界の財産である柿右衛門のアーカイブ化を目指します。

伝統みらい研究センターの対象領域



地域産業研究部門

2017 2018 2019 2020

た
め
る

『ためる』

- 工芸品産業データ収集
調査対象：素材、商品、歴史的背景、技術等
対象地域：福岡、佐賀
※将来的には対象地域を九州全域にまで広げる
- 工芸品産業の問題整理

● 工芸品産業データ収集 (対象地域：福岡、佐賀) → 九州全域

○ 工芸品産業の調査内容と問題をまとめ報告 (2021年を予定)

つ
な
ぐ

『つなぐ』

- 地域支援を行う公的機関等との連携
- 産地に対するプロジェクト
- 地域産業 / 工芸品産業に対するよろず相談機能構築

○ 産地に対するプロジェクトは継続して実施

○ 地域産業 / 工芸品産業に対するよろず相談機能構築

い
か
す

『いかす』

- 地域活性化のための研究
- プロジェクト型教育
- 新商品開発等
- 地域産業のシンクタンク的作用

○ 地域活性化のための研究

○ プロジェクト型教育
○ 新商品開発等

は継続して実施

地域の課題に対応する
シンクタンク

●は早急に取り組むテーマ
■はセンターの最終目標

地域産業研究部門

伝統産業を対象とした各種プロジェクトの継続



大川家具プロジェクト



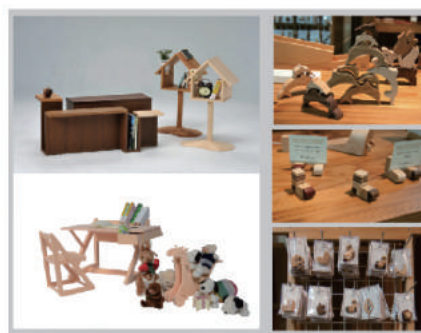
久留米蒔プロジェクト



プロジェクト展 他



博多織プロジェクト



諸富家具プロジェクト



博多人形プロジェクト

柿右衛門研究部門

ためる

『ためる』

- 柿右衛門の成長過程と作品の変化に関する研究
(15代の時系列な経過調査)
- 歴代柿右衛門の資料収集
- 柿右衛門窯所蔵のスケッチ・下絵等のデジタル化

つなぐ

『つなぐ』

- 世界の研究機関・研究者とのネットワークの活用
- 柿右衛門窯資料館との連携
- 柿右衛門窯オフィシャルサイトとの連携
- 柿右衛門展等との連携

いかす

『いかす』

- デジタルミュージアム的な役割
- デジタルデータの貸出
- 出版物・映像等への活用
- アーカイブ（現代版の覚）

2017 2018 2019 2020

●柿右衛門の成長過程と作品の変化に関する研究



○柿右衛門窯所蔵のスケッチ・下絵等のデジタル化

○世界の研究機関・研究者とのネットワークの活用

○柿右衛門窯資料館等との連携

○出版物・映像等への活用

柿右衛門のアーカイブ（現代版覚）



伝統みらい研究センターの設立

MIRAI Research Center for Traditional Crafts

2017.03.11